

平成 30 年 度
入 学 試 験 問 題

国 語

(第 1 限)

注 意

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開かないで下さい。
- 2 本冊子は第一問題から第四問題まであり、6 ページまでです。ページがなかったり、印刷が不明瞭な箇所があった場合は申し出て下さい。
- 3 解答用紙は、この冊子に折り込んであります。指定された欄に、受験番号、氏名を忘れずに記入して下さい。
- 4 解答は、解答用紙の指定された箇所に記入して下さい。
- 5 試験終了の合図があったら、鉛筆を置き、監督員の指示に従って下さい。
- 6 この問題冊子は、各自持ち帰って下さい。

松江西高等学校

【第一問題】 次の文章を読んで、下の問1～問7に答えなさい。

伝達には、言語と非言語どちらが有効かと考えるのは、意味のあることではない。言語が伝達に有効な情報があり、一方で非言語が伝達に有効な情報がある。それぞれは、複合的にホカンし合う関係にある。

⑥ 情報はその特性によって、「伝わりやすい形式」が異なる。両方の特性を理解し、情報伝達の方法を工夫すればよい。

最近では、パワーポイントというソフトのおかげで、ビジネスマンが作る企画書やプレゼンテーション用の資料なども、文字情報だけではなく、イラストや図表がふんだんに使われるようになった。基本的には非言語情報が盛り込まれているほうが、伝わりやすいが、なんでもかんでもヴィジュアルにすればいいというものでもない。文字で簡単に伝えたほうがわかりやすいことまで、無理にシカク化して説明しようとする、かえってわかりにくくなる。このあたりは、「伝わりやすい形式」を作り手が理解していないから起こるのだろう。

私たちは、詩（短歌や俳句を含む）や戯曲を読むとき、自分の想像力を働かせなくてはならない。

作者が、目の前にある光景を言語で一度概念化する。もちろん、短い言葉で表現するのだから、目の前にある光景すべてを描写することはない。自分の目に映り、なおかつ深く心を動かした「核」になるものを、誰かと共有したいと願って言葉に収める。

読者は、作者の目と言葉の感覚^②によって一度概念化された言葉を受け取り、少ない情報量の中から、作者が見たであろう光景を想像し、作者の感動の核に触れて、その感動を共有する。両者は時代を超えて深く触れ合える。

A、送り手はまず目の前の光景に感動して、それを概念化する。受け手は概念化された言葉から、頭の中に光景を再現する。頭の中で、絵と言葉を交換できる能力が双方に必要とされる。

ところがテレビや漫画だけを見ていて、「詩を読んで絵を頭の中で描く」能力は磨かれるだろうか。「小説を読んでも、自分で絵がイメージできないから、さっぱりわからない」という人と出会ったことがないだろうか。相当数いると思われる。

舞台の演出家は「文字を立体化する仕事」といわれることもある。演出家は、戯曲という文字情報から、舞台装置をイメージし、その役に合う俳優を選ぶ。俳優がどんな話し方で、どんな表情で相手を見るか、どんな衣装を着て、どんな仕草をするか。どのシー

問一 傍線部①～⑤について、次の1、2に答えなさい。

1 傍線部①②③④⑤のカタカナの部分で、それぞれ漢字で書きなさい。ただし、楷書で丁寧^{かじしよ}に書くこと。

2 傍線部⑥の「情」を楷書で書く場合、三画目に書くのはどの部分か。「情」の三画目だけを濃くなぞって書きなさい。

情

問二 傍線部①について、これに対する筆者の意見として適当なもの、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア イラストや図表を使わなければ説明できないのは作り手の能力不足だ。

イ イラストや図表は分かりやすいので、積極的に使っていくのがよい。

ウ イラストや図表で分かりにくくなる場合もあるので、注意して使うべきだ。

エ イラストや図表は分かった気になってしまいがちなので使わない方がよい。

問三 傍線部②「感」の総画数を数字で答えなさい。

ンにどんな音楽をかけるとよりイメージが増し、どんな照明だと場面のイメージが膨らむか、などを考えていく。

私は三十五年演出家をやっており、随分「絵をつくる」トレーニングを積んできた。だから、一度概念化された言語情報から、非言語情報を広げるのにナレているともいえる。この作業を現場では「字を絵にする仕事」といつたりもする。

テレビや漫画ばかり楽しんでいては、この「字を絵にする」能力が磨かれていかない危険性がある。その危険な状態を大人は「馬鹿になる」と表現していたのである。

この言い方は、正鶴を射ていないわけではないが、相手の心に届く言葉で言わないと、言われた方の気持ちは離れていく。大人はもう少し丁寧に説明する必要があった。言葉が足りなかったのである。

私たちはテレビや漫画を楽しむ一方で小説や詩や戯曲を読んで、普段使っていない脳の分野を刺激してやる必要がある。特に詩や戯曲は、受け手側の自由度が大きい分だけ、脳の刺激になるはずだ。近年、書店で詩や戯曲のコーナーが狭まっているのは残念なケイコウである。

「小説も戯曲も詩も一生要らないから、放っておいてくれ。テレビや漫画で十分」そういう人もいるかもしれない。

B、「絵を頭の中で描く」ことが苦手な人はコミュニケーションのチャンネルが減ってしまうのである。「字を絵にする」能力が磨かれなければ、「絵を字にする」能力も磨かれるとは思えない。それは五感で感じたことを言語化できない、ということだ。言葉という道具を巧みに使う叡智は、人間だけに与えられた喜びである。言葉から「絵を作る作業」と絵から「言葉を作る作業」、人間にはどちらも必要なのである。

(竹内一郎『やつぱり見た目が9割』による。)

(注) プレゼンテーション……聴いている人に情報を示し、理解を促す行為。

戯曲……演劇の台本。また、そのような形式で書かれた文学作品。人物の会話

やト書きなどを通じて物語を展開する。

概念化……要素を適切に取り出し、短くまとめて表現すること。

正鶴を射て……要点や核心をついた表現になっいて。

問四 空欄A・Bに入る語の組み合わせとして最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア A ところが B また
イ A つまり B しかし
ウ A さらに B なぜなら
エ A たとえば B さらに

問五 傍線部③について、それを行うためにはどのような力が必要か。十字以上、二十字以内で抜き出しなさい。

問六 傍線部④について、言葉が足りないとは具体的にどういうことか。二十字以上、三十字以内で答えなさい。

問七 この文章における筆者の主張としてあてはまるものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 情報を伝達する時には、言語情報を中心とし、非言語情報を補助的に使うとよい。
イ テレビを見たり漫画を読んだりすることで、言語情報からイメージを広げる能力はきたえられる。
ウ 「絵を字にする」能力とは、自分が五感で感じ取ったことを言葉にして伝える力である。
エ 「絵を作る作業」より「言葉を作る作業」の方が難しく、より人間に必要である。

【第二問題】 次の文章を読んで、下の問一～問七に答えなさい。

十一歳の夏休み、仕事で一月ヨーロッパを回っていた父親から、お土産に万年筆をもらった。銀色で細身の、スイス製の万年筆だった。

キャップを取ると、磨き込まれた流線型のペン先が現われ、それは見ているだけで胸が高鳴るほど美しく、持ち手の裏側にはその曲線によく似合う筆記体で、私のイニシヤルY日が彫ってあった。

おもちゃ以外のお土産をもらうのは生まれて初めてだったし、まわりで万年筆を使っている子など一人もいなかったから、自分が一足飛びに大人になったような気がした。この万年筆さえ手にしていれば、何か特別な力を發揮できると信じた。

私はいつどんな時も、書きたくて書きたくてたまらなくなつた。国語の漢字練習帳があるからと母に嘘をつき、お金をもらって大学ノートを買った。学校から帰るとランドセルを置き、真っすぐ机の前に向かってとにかく万年筆のキャップを外した。

いざとなつて、自分が何を書こうつもりなのか、**A** 考えていないことに気づいたが、私はひるまなかつた。そんなことは大した問題とは思えなかつた。インクがしみ出してくる瞬間や、紙とペン先がこすれ合う音や、罫線の間を埋めてゆく文字の連なりの方が、ずっと大事なのだつた。

大人たちはすぐに、娘が何やら夢中になつて書いていると気づいたが、必要以上に干渉はしなかつた。とにかく机の前で書き物をしているのだから、それは勉強、例えば漢字の書き取りのようなものに違いないと思ひ込んでほしい。

スリッパをはいで階段を登つてはいけないとか、お風呂に入った後は冷たいものを飲んではいけないとか、あの頃課せられていた多くの禁止事項の中に「書き物」が加えられなかつた代わりに、大人たちは誰も書かれた内容については興味を示さなかつた。どうせ自分たちの知っている漢字ばかりなんだから、という訳だ。

私はまず手始めに、自分の好きな本の一節を書き写してみた。『ファーブル昆虫記』のフンコロガシの章。『太陽の戦士』の出だしのところ。『アンデルセン童話集』から『ヒナギク』と『赤いくつ』。アン・シャリーが朗読する詩。『恐竜図鑑』のプレテラノドンの項。『世界のお菓子』、トライフルとマカロンの作り方……。

想像したよりずっと**B** する作業だった。たとえ自分が考えた言葉ではないにしてもそれらが私の指先を擦り抜けて目の前に現われた途端、いと美しい気持に満たされた。

問一 傍線部①～④について、漢字の読みをそれぞれひらがなで書きなさい。

問二 二重傍線部ア～エの中から品詞が同じものを二つ選び、記号で答えなさい。

問三 空欄A・Bに入る語の組み合わせとして最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- | | | | | |
|---|---|------|---|------|
| ア | A | すつかり | B | はらはら |
| イ | A | いつでも | B | くらくら |
| ウ | A | しつかり | B | ふわふわ |
| エ | A | ちつとも | B | わくわく |

問四 傍線部①について、万年筆を手にした時の「私」はどのような気持ちであったか。次の文の空欄に合うように、十五字以内で文章中から抜き出して答えなさい。

まるで **(十五字以内)** ような気持ち。

問五 傍線部②について、「私」の周りの大人たちは、どのような反応を示したか。四十五字以上、五十五字以内で答えなさい。

言葉たちはみんな私の味方だ。あやふやなもの、じれったいもの、臆病なもの、何でもすべて形に変えてくれる。ブルーブラックのインクで縁取られた、言葉という形に。そしてふと気がついて手を休めると、ノート一面びっしり文字で埋めつくされている。ついさっきまでただの白い紙だったページに、意味が与えられている。しかもそれを授けたのは自分自身なのだ。私は疲労感と優越感の両方に浸りながらページを撫で付けた。まるで世界の隠された法則を、手に入れたかのような気分だった。

「書き物」に対する態度が、他の大人と唯一違っていたのがキリコさんだった。干渉しない点については同じだが、彼女は明らかにこの作業を、勉強とは違う種類のものとして認めていた。敬意さえ払っていたと言ってもいい。

子供部屋やダイニングテーブルで作業に熱中している私を見つけると、一瞬キリコさんは立ち止まり、姿勢をただし、邪魔しないように注意を払いながら通り過ぎた。あるいはおやつを運んでくる時は、不用意にノートの中身に目をやって盗み見していると誤解されないよう、気を使っているのが分かった。自分の手元に視線を落とし、一切声は掛けず、ノートからできるだけ遠いところにジュースを置いた。コップに付いた水滴で、ページが濡れてはいけなそうと思っただからだろう。

やがて私は他人の文章を書き写すだけでは満足できなくなり、作文とも日記ともお話しとつかないものを書き付けるようになった。クラスメイト全員の人物評と先生の悪口、一週間の食事メニュー、百万円あったら買いたい品物のリスト、テレビ漫画の予想ストーリー、自分の生い立ち・みなしご編、無人島への架空の旅行記。とにかく、ありとあらゆるものだった。

今日は何にも書くことがないという日は、一日もなかった。キャップさえ外せば、万年筆はいつでも忠実に動いた。

(小川洋子『キリコさんの失敗』による。)

(注) アン・シャーリー……「赤毛のアン」の主人公。

トライフル……様々な具材を器の中で層状にした、イギリスのデザート。

マカロン……アーモンド、卵白、砂糖を使った半球形の小形の焼き菓子。

キリコさん……「私」の家に来ていたお手伝いさん。

問六 傍線部③について、どのようなことについて「優越感」を覚

えたのか。次の文の空欄に合うように、二十五字以上、三十五字以内で文章中から抜き出して答えなさい。

自分自身によって (二十五字以上三十五字以内) こと。

問七

傍線部④について、キリコさんの態度を説明したものとして最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 細心の注意を払って中身を点検し、言葉の使い方や漢字の使い方について注意を与えつつ、一生懸命取り組む「私」を賞賛する態度。

イ 「私」が作業にのめりこみすぎないように気を使い、適度に気をまぎらわせるようなことをしながら、効率よく作業を進めさせようとする態度。

ウ 書くことに敬意を払い、集中している「私」をできるだけ邪魔しないようにして、気持ちよく作業を進められるようにそれとなく応援する態度。

エ 「私」に気づかれないように中身に目を通し、必要に応じて修正すべき点について意見を述べ、よい文章を書けるよう手助けしようとする態度。

【第三問題】 次の文章を読んで、下の問一～問五に答えなさい。

作者の住む家が火事で焼けてしまい、これまでの家とは比べものにならないほど小さな家に転居することとなった。以下は、それに続く場面である。

ひろびろとももの深き、み山のやうにはありながら、花紅葉はなもみぢのをりは、四方よもの

山辺やまのへも何ならぬを見ならひたるに、たとしへなくせばたといえやうもなくせばき所の、庭のほどもなく、

問題にならないほど素晴らしい

たといえやうもなくせば

木などもなきに、いと心憂こころうきに、向かひなる所に、梅、紅梅など咲きみだれて、

隣の家

風につけて、かかえ来るにつけても、住みなれしふるさとかぎりなく思ひ出で

(においか) やって来る

じゆる。

匂ひくる隣の風を身に④しめてありし軒端の梅ぞこひしき

(『更級日記』による。)

み山……奥深い山。

をり……時期。

ほど……大きさ。

軒端……家の軒に近い場所。

問一 傍線部①「見ならひたる」を現代仮名遣いに改めなさい。

問二 傍線部②「いと心憂きに」とは、ここではどういう意味か。最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 新しい家を見て、とてもがっかりした心持ちである。
- イ 新しい家を見て、とても気持ちが晴れやかである。
- ウ 新しい家を見て、少しだけ気持ちがおだやかになる。
- エ 新しい家を見て、少しだけ残念な気持ちである。

問三 傍線部③「住みなれしふるさとかぎりなく思ひ出でらる」とあるが、それはどうしてか。二十五字以上、三十五字以内の現代語で答えなさい。

問四 傍線部④「ありし軒端の梅ぞこひしき」とは、ここではどういう意味か。最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 向かいの家に咲く梅は我が家にはもつたない。
- イ かつて暮らした家に咲いていた梅がなつかしい。
- ウ どこかの家に咲く梅をこっそり持ってきたい。
- エ 梅の花はどの家に咲いていても素晴らしいものだ。

問五 この文章の内容に合うものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 以前の家からは、どの方向にも紅葉は見えなかった。
- イ 火事の後に移った新しい家には小さな庭しかない。
- ウ 新しい家の周辺には美しい風景は全く見られない。
- エ 現在の家の隣には、梅が一本しか生えていない。

【第四問題】

資料1

ある新語を日常会話で実際に使うことがある人の割合	
16～19歳	34.1%
20代	33.7%
30代	5.4%
40代	3.1%
50代	0.7%
60代	0.5%

平成25年度「国語に関する世論調査」より

資料2

流行語や新しい言葉の意味がわからないことがある人の割合	
16～19歳	23.7%
20代	27.0%
30代	46.9%
40代	56.2%
50代	59.6%
60代	69.7%

平成28年度「国語に関する世論調査」より

上の資料は、文化庁が行った「国語に関する世論調査」をもとに作成したものです。

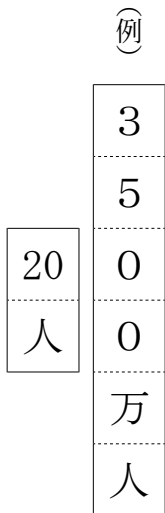
資料1と資料2を読んで、次の①～③の条件に従って、あなたの考えを書きなさい。

① 流行語や新しい言葉を使用することについて、資料1と資料2から読み取ったことをまとめて書くこと。

② ①で読み取ったことから、言葉のあるべき使い方についてあなたはどうか考えるか、自分の考えを書くこと。

③ 百二十字以上、百五十字以内でまとめること。句読点や記号も一字として数える。ただし、一マス目から書き始め、段落は設けない。

※ 数字や記号は次のように書いてもよい。



※ 読み返して文章の一部を直したいときは、二本線で消したり、余白に書き加えたりしてもよい。